

若者たちを視野に入れて 時代の変化に的確に対応



パチンコ産業について身ぶり手ぶりで熱く語る深谷友尋会長

——新しい年がスタートし、人々は希望を持ち、それぞれの意欲に燃えています。しかし、昨年は無曽有の惨事・東日本大地震とその後のことに追われ続けた1年でした。そんな中で産業界の対応はどうでしたでしょうか。

深谷 世の中が一変した年でした。3月11日の東日本大震災で亡くなられた方々、被災された方々に改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。私たちの産業では、電力使用に関する石原慎太郎都知事の発言、ネット上の書き込み、団体の抗議行動などバッシングが続きました。しかし、私たち日遊協はもちろん各団体、企業がボランティア活動、義援金、節電など社会に十分に認められる活動を行なうと思っています。

昨年3月11日に起きた東日本大震災は、人々の命と心に未曾有の犠牲を強い、並行した原子力発電所のメルトダウンは世界に恐怖を撒き散らしました。

そのなかで、私たちパチンコ産業も、その対応に積極的な姿勢を打ち出し、社会的な要請に応じてきました。被災地への支援、総合的な節電活動のうえに、お客様へのサービス、経営の強化にも努めてきました。業績は長期低迷傾向から抜け出すことは出来ませんでした。

新しい年を迎え、業界の牽引者である日本遊技関連事業協会の深谷友尋会長に現在の課題そして将来の展望についてお聞きしました。

聞き手「日遊協」編集部

震災後の要請に十分に対応した


日遊協はいち早く、ボランティア隊を組織し、昨年中に18隊189人を派遣しました。産業界の義援金も当初20億円の予定が、50億円近くまで集まり、被災地に送られています。また節電に関しては、東電管内で言えば政府目標

の前年比15%減をはるかに超える30%以上減の実績をあげました。これらは、私たちの産業がひとつたが団結すれば、社会の要請に十分対応できる力があることを示したと言えます。

——大震災対応はすばらしかったと思います。業界の中での問題では何かあるでしょうか。

深谷 ひとつ残念なことがあります。総付景品のガイドラインのル

ールの採用や広告規制に対する認識など、東日本大震災の影響に追われていた面もありますが、もうひとつタイムリーな対処が出来なかったことです。これらについての説明が不十分で会員はじめ業界の中で理解されない面が残り反省しております。もう少し丁寧に検討、対応し、日遊協がリードしていくべきでした。



日本遊技関連事業協会
会長 深谷友尋

ボランティアは精神面の支援へ

——新しい年に入って、まず、被災地に対するアプローチの継続がありますか？

深谷 もちろんボランティア派遣は続け、3月には再開します。昨年は石巻市に焦点を置いて活動してきましたが、すでにガレキの撤去も終わってきており、これからは肉体的な活動よりもむしろ精神面での支援が中心になっていくと思います。白石良二隊長が訪れたあと私も南三陸町に行ってきました。現地の方々は精神的にも大きく傷ついており、これからは精神的なケアや楽しみを提供していく必要があると思います。ゲームやイベントなど被災者の皆様と共にできることを白石隊長とも相談していきますが、それには準備が必要ですよ。

また、現地では悲惨な大震災を「忘れてほしくない」ということで語り部さんが活動しています。涙なくしては聞けない大切な言葉は私たちにとっては忘れがたいものになりますので今年の支部総会

誤解、偏見許さず 真の姿アピール

などは是非呼んで話をお聞きすべきだと思えます。そしてそれを我々が語り継いでいくことが大切です。

——昨年暮にNHKが「パチンコにハマる女たち」という放送をしましたが、今年のはめり込みや依存の問題もさらにクローズアップされてくると思いますが——。

深谷 NHKの放送など一方的な見解や間違ったデータの部分が、私たちが一般の人々や社会に対して実際の有り様を確実にアピールしていかねばなりません。

例えば、トイレを清潔に維持する日常業務や分煙を強化してお客様の憩いの場にする努力が、女性を「依存に誘い込むため」のような理解をされたらたまりません。私たちが、お客様が安価に心豊かに楽しめる場所を追求していることを知ってほしいですね。私たちの産業は、営業時間も決められ、機械の性能も規則があり、遊技料金の単位も決まっています。風営法の下に娯楽としての位置付けがなされているのです。

また、依存の問題は他の分野でも言われることですが複雑な要素がからまりあっているものであり、単純にその原因を指摘するには無理があります。私たちはお客様に対して積極的に正しくのめり込みに対するPRをしていく必要があります。ホールに貼り出してあるリカバリーサポート・ネットワークのポスターを見て相談する人が多いというデータからも積極的なPR活動が重要なことを認識しています。

さらに今後は篠原菊紀教授（諏訪東京理科大学教授、日遊協理事）とも相談して、リカバリーサポート・ネットワークからさらに人々をケアしていく方法についてもプログラムとして検討していく必要があると思います。

生活に必要な 憩いの場所です

——パチンコが持っているお客様の楽しさも、もっと知ってもらいたいですね。

深谷 戦後、いわば四畳半で家族が暮らすような苦しい時代が続きました。その頃にパチンコは盛ん

になってきました。息抜きの場所になったのです。また、現在は人々が孤立する社会になってきて、心を解放する場所にもなっています。震災の東北地方でパチンコの開店を望まれ、多くのお客様がホールに来られるのを見ても、パチンコは一時的な心の避難所になっているのです。人間生活のうるおいに必要な娯楽なのです。

高額ではなく 遊技の柔軟性を

——社会とのつながりを大切にしながらも、まず大切なのは来られたお客様へのサービス。それと同時に企業ですから経営もないがしろにはできません。現在の産業の低迷傾向はどこから来るのか、どこに問題点があるのでしょうか？

深谷 高額な遊技料金を用意しなければならぬのは大衆娯楽とは言えません。ポケットマネーで充てんする時間消費型のレジャーのはずです。また逆に以前の定量制のように1時間ぐらいで結果を出して、お客様が遊技の時間を選択できる柔軟性も合わせて必要です。経営者はそれが理解できてい

ても遊技機入替費用、家賃、従業員の福利などを考えてややもすれば売り上げにこだわりがちです。しかし、大衆娯楽としての原点に戻ることこそが生きる道なので、私たちが一所懸命汗をかい

て頑張らなければなりません。

すでに日工組では各メーカーが連携して時間消費型の遊技機を研究しておられると聞いております。この傾向をホールに携わる経営者も一緒に推進していく必要があります。また震災後、日本は様々な面で大きく変化してきています。その意識の変化を的確にとらえ、業界全体でその状況に対応してい

かねばなりません。

必要肝心なのは 遊技機の持続性

——遊技機の価格が高すぎる。それが業界のネックになっているという声をよく聞きますが。

深谷 私は機械が高いのが問題だとは単純に考えていません。それはひとつにホールの経営の問題であり、安さを求めるだけでは間違っていると思います。価格より、肝心なのは持続可能な遊技機であ

るということです。2、3か月で替えなければならぬものではなく、半年でも1年でも使える、そして環境にやさしい機械が必要なのです。20年前は200万台くらいだった機械が現在は500万台近くになっています。それが入れ替わっていくのですから、経済の仕組みから言っても、環境問題からも、そのサイクルを考えなくてはなりません。そのために、メーカーもホールも知恵を出して持続可能な遊技機に取り組み始めてお



1月12日、臨時総会後の記者会見であいさつする深谷会長

ります。

パチンコ産業は装置産業であり、機械、場所、人件費などが必要で、見た目の粗利益が大きいように見えますが、原価比較を言えば他産業とそんなに変わるものではありません。ただその中で高額な遊技料金を要求することになってはファン無視となります。そのためにも、サイクル長く使える機械を真剣に作りあげていきたいのです。

一般社団法人で 公益性も大事に

——会長は1月12日の臨時総会のあと、新年祝賀会で「今年は、昨年にも増して勝負の年になります」と強調されておりましたが、今年も具体的にいろいろな課題が待ち受けています。まず、選択の時期が近づいてきた新しい公益法人化の問題はどうでしょうか。

深谷 公益法人か一般社団法人かの選択をすることになります。大きく括って言えば公益か業益かということになります。私たち日遊協は、現在、公益法人として公益事業も積極的に行ってまいりましたが、現状で求められているの

は産業界の業益の方がやや強いと思います。一旦、一般社団法人化を目指し、一般社団法人となっても公益性は残されます。また、2年近くの時間がありますので、国民の皆様のニーズをとらえ、業界各方面のリーダーの皆様とも時間をかけて最終的に決めていきたいと思えます。どちらに決まるとしても、現在監督官庁である警察庁とのゆるぎない信頼関係は継続しますし、産業界の横断的組織として、健全化、適正化、近代化と国民の皆様への娯楽の提供にまい進する使命に変わりはありません。

消費税の選択で 押し付けはダメ

——もうひとつ、税率アップの時期が迫ってきた消費税に対してはどうお考えですか。

深谷 パチンコ産業は50万人とも言われる雇用を確保し、その経営の規模に応じて納税を行っていません。その上で、消費税率の上昇もたらす影響は小さくありません。その中でホールにとって内税で対処するか、外税にするか、の選択になります。どちらにするかはそ

れぞれのホール企業の経営方針の自由で、日遊協がどうこうとすることはありません。その納税方法を統一出来ればよいことですが、より業界が混乱しないように努めなければなりません。ただ、日遊協としては遊技料金としてのパチンコ4円、パチスロ20円の原則は堅持していきたいと考えています。

風営法の改善は 論議を尽くして

——風営法の改善については、ワーキングチームを立ちあげて、慎重に、綿密に検討しようとしておりますが。

深谷 先ほど申し上げたように、昨年はやや急ぎすぎた感がありましたので、ワーキングチームを十分に機能させ、副会長と連絡を密にして進めていきたい。なによりも先に、皆さんが風営法について、更に研鑽を深める必要があり、軽々に事にあたるべきではありません。自業にとって有利なことを考えるのは経営者の取るべき道ではありませんが、得ることばかりを願うのは筋違いで、私たちに期待された社会的責任もしっかり自覚し、対

処していくべきです。足元を見つめて、議論を尽くしてから取り組みたいと思います。

本質的に違う カジノと私たち

——カジノについては、大王製紙の事件などあって法案の提出が遅れそうですが。

深谷 そのような状況のようですが、元々特別立法で運営されるギャンブルとしてのカジノと風営法下にある大衆娯楽としてのパチンコはなんら関連のあるものではありません。ただ、誤解を招くことのないよう、私たちは健全娯楽としてのなりわいを守っていく必要があるということです。

ますます必要な 正しい店長教育

——当面する課題とは別に、日遊協としての具体的な活動もめじろ押しですが、今年はどのような展開になるのでしょうか。

深谷 まず、各業種の中堅管理職クラスの教育講座として成果をあげているマネジメント・カレッジ

軽く冗談も交える深谷会長



をもっと他団体にもPRしていきたい。意外と外部に知られていない面があり、私はこの際全日遊連にも参加を呼びかけていきたいと思えます。また、毎年開かれる講座にプラスして、「店長講座のOB会のマネジメント・カレッジ」を開くことが決まりましたが、評価できることです。一度マネカレで学び経験を積んで、その後の成長を確認しあう意味でも興味深いものがあります。

さらに、私たちは風営法の許可業者という立場を重視する必要があります。風営法の理解が大目標です。日常の経営には、欠かせない法律

です。特に店長の資質が重要で、肝心なことは「何んで？」などという店長がいては困ります。風営法の勉強を兼ねた店長教育の機会を各団体にも呼びかけて進めたいと考えています。遊技機取扱主任者制度についても、現在販売会社の従事者が資格として運用していますが、ホールであっても機械を取り扱う人が必要で、そのためのシステムも今後は考えていくべきです。

共生の森活動は より自主性発揮

——遊技機フェスティバルは5月に開催されますが。

深谷 遊技機と業界、遊技機とお客様をつなぐ重要な催しとなっております。特に時間消費型の楽しく遊べる機械の追求を具体的に各方面と結びつけるイベントとして貴重です。開催までの手間と努力は大変なものがありますが、さらに充実させてほしい。

——昨年の大震災で、共生の森の事業が影響を受けましたが。

深谷 共生の森は地元の皆様との大切な約束です。昨年は、大震災の対応に追われ、ボランティア活動などで人と予算を取られたことは否定できません。昨年は子供たちなど家族を呼ぶイベントを中止し、現地の方々にお手伝いいただく割合が多くなりました。今年の日遊協会員の力を自主的に発揮したいと思えます。40〜50人が集まることはそんなに難しくはありません。現地でパーベキューなども催し、10年計画を着々と進める力にしたいと思えます。

ゴト、不正対策は 経営者の責務だ

——ゴト対策、不正対策については継続するパワーが重要ですが。

深谷 ゴト事例は業界のイメージを悪くさせ、かつお客様へ迷惑を及ぼす最大の敵であります。情報の上昇が悪くなったのは由々しいことです。ホールがゴト事案を内部で抱えてしまつては犯罪者の思うツボです。私は再三「不正ゴトの分だけお客様に損をかけてし

まう」と言っております。情報
の集中化が決められました。そ
れ以上にゴトそのものに対する闘
いを強化すべきです。

内部不正については、私は着実
に減っていると感じていますが、
バッシングを受けやすい業界です
から、ひとつのホールの不正摘発
が大きな影響を与えています。
それだけにホール経営者自身の責
任は重いのです。不正の意図がな
くても、健全化推進機構による立
入検査で計数機の誤差が再三指摘
されています。メンテナンスに問
題があるとすれば、気のゆるみと
か体制の不備であり許されるもの
ではありません。結果としてお客
様へ迷惑を及ぼす行為になるわけ
です。

原則を守りたい 広告宣伝の方法

——ゴトや不正とは別に、昨年広
告規制の問題が業界の中で大きく
クローズアップされました。6月
22日付で警察庁から出された2つ
の通知のうち「広告・宣伝などに
ついて」の通知が、射幸性の問題
もからめて騒がれました。

深谷 この通知は警察庁や地方の

行政講話でも示されている通り「平
成14年の通達」の確認だったので
すが、それがなぜ改めて出された
かと言えば、一部に隠語を使うな
どして射幸性をあおった広告・宣
伝が見られたからです。さらに、
その後も改善されない部分がある
と行政から指摘されたことはなお
反省しなければなりません。地方
でのバラつきがあつたとしても、
原則は射幸心をあおらない、事実
に基づいた広告・宣伝を行うとい
うのは当然のことです。広告も必
要ですがそれ頼りではなく、私た
ちのなりわいは、日常のお客様と
のつながり、その継続で成り立っ
ているのであり、その関係を大事
にすることこそが産業にとって大
切なのです。これは自明の理とい
えますが、忘れてはいけないと思
います。

将来に希望持っ 若者たちが多い

——産業界はいろいろ課題をかか
えているわけですが、最後に今後
の日遊協のあり方、ひいてはパチ
ンコ産業の将来像について話して

いただけませんか。

深谷 1月12日付の日経新聞にこ
んな記事が載っていました。「生
まれ変わる」としたら日本人なり
たいか」との質問に10代では「ぜ
ひなりたい」との答えが57%、20
代では40%、30〜40代になると30
%で、若い世代ほど日本に愛着が
ある。また、今後の生活の見通し
について、20〜29歳は27%が「良
くなっていく」とした一方、50歳
以上は1ヶタしかいませんでした。
若者の方がはるかに将来を明るく
見ている。高齢化社会の現在、私
たちはどちらかと言えば高齢者が
楽しく遊べる遊技というものを意
識してきましたが、もっと若者の
ことを把握しなければ衰退してい
くばかりになります。20代の人た
ちを雇用も含めて、この産業に取
り込んでいくチャンスを作ってい
きたいと思います。先日、トヨタ
自動車の方にお会いした時の話で
すが、例えば、自動車産業でも車
を買う若者、自動車への憧れのよ
うな、自己所有意識が希薄だとい
われています。そこで自社の利益
だけでなくトヨタは、まず若者に
免許証を取得してもらおう運動を宣
伝としたそうです。なんと崇高な

考えであり、遠大な計画でしょう
か。私たちの業界も総力をあげて
若者にアプローチし、社会の一角
としての使命(安心・雇用・納税・
社会貢献)を果たし、その先頭に
日遊協が立っていきます。そのた
めにもさまざまな調査研究、広報
活動にトライしていく必要がある
と思います。

——ホールのあり方も変わってい
くということですね。

深谷 単に遊んでいただくだけ
なく、若者も参加しやすい多目的
ホールへの変化。環境に優しさや
ネット関連、知識欲を満たす空間
地域連帯などです。いまエコパチ
が課題のひとつになっていますが、
これらなどが受け入れられ、社会
によりとなれば、一気にその時代
が来ると思います。

また、業界の展望の一つとして、
若者たちをはじめ多くの人にパチ
ンコを知ってもらうために、パチ
ンコ博物館の建設も視野に入るで
しょう。100年の歴史へ向かっ
ている私たちの産業に対する歴史
的責任の観点からも検討すべきで
しょう。

——多岐に渡ってお話しをいただ
き、ありがとうございました。